

第1回北方学園開校準備委員会 会議要旨

とき 令和元年8月1日(木)

ところ 庁舎2階 大会議室

※会議の主な内容は以下のとおり

事務局：定刻どおり第1回北方学園開校準備委員会を始める旨を告げる。

副町長：会議に先立ち、あいさつを述べる。

○本日は、第1回北方学園開校準備委員会にご出席賜わりまして、ありがとうございます。
この開校準備委員会及び専門部会も含めると、延べ64人という方に委員にご就任していただいています。実質的な議論を進めていくため、なるべく幅広い分野から多くの方にご協力をお願いしており、委員の皆さんにはお忙しい中ご就任いただきありがとうございます。

そもそも学園構想は、教育力向上というのが当然第一の目的ですが、厳しい財政状況の中で、いかに未来を担う子ども達に安全な教育環境を提供できるかという発想が始まりです。北方町議会の提案説明の中で、戸部町長も「北方町の未来・町の持続などを含めて、総合的な判断から学園構想を立ち上げさせていただいた。さまざまな課題もあると思いますが、学園構想には不退転の決意で挑む覚悟です」と申し上げ、議会のほうで関連予算をお認めいただきました。その後3月14日には学園構想に関する答申を頂き、それを受けて6月には町の基本計画を発表させていただき、本日第1回の北方学園開校準備委員会を発足させていただいたわけです。実質的な船出となったわけですが、船出に当たり、ひとつ皆様方をお願いがございます。この北方学園については令和5年4月の開校が絶対命題です。これを目標というのではなく、決定事項として皆様のご協議を始めていただきたいと思います。令和5年、長い道のりではございますが、施設の建設・改築等考えますとそれほど長い時間ではありません。ただ、4年にわたり皆様方に様々な課題をご協議していただくわけですので、是非北方町の子ども達の為にご協力いただきますことをお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

※辞令交付及び委員の自己紹介を行う

事務局：委員長及び副委員長の選任を行う。選任方法について委員からの意見がないため、事務局より岐阜大学教職大学院教授の石川委員を委員長に、自治会連絡協議会長の大平委員を副委員長にそれぞれ指名する。特に委員からの異論はなく、賛成多数で了承される。

委員長：委員長就任にあたり、あいさつを述べる。

○ただいま北方学園開校準備委員会の委員長にご指名を頂きました岐阜大学の石川でございます。皆様のご同意を頂きましたので、委員長を勤めさせていただきたいと思っております。昨年度の学校構想検討委員会に引き続いての今回の委員長就任、しかも、これから、令和5年の開校まで長い道筋ではございますが、じっくり皆さんと考え、いろいろな人々の意見をすくい上げながら、町内の御協力を頂きながらスムーズな開校に向けての進行に勤めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、この学園構想の取り組みに関しましては、昨年度に構想検討委員会において、平成27年度に学校教育法の改正によって位置づけられました小中一貫の義務教育学校の制度を活用して、誰もが安心して学び合える学園の構想・開校を目指すことを町にご提案させていただきました。そこから意見書を基にして、町としての取り組み方針を示した「北方学園構想基本計画」が作成され、いよいよ具体的な取り組みがスタートします。この開校準備委員会では、この基本計画に基づいて施設や学校運営やさまざまな部門に渡って詳細な部分を検討していくことになろうかと思っております。先ほど副町長さんからのご挨拶にもありましたが、今回の北方学園構想には町長さんの強い思い入れがあり、成功に向けて不退転の決意で望まれるということでしたが、この開校準備委員会では、いろんな立場、町内の地域や住民の方や、一人一人の学校の先生、行政の方たちの意見や期待を含め、また、これからの教育の在り方を見通して、忌憚のないご意見を頂き、より良い学園の開校に向けて協議を深めていきたいと思っております。限られた時間ではございますが、参加される皆さんにとっての有意義な協議ができますよう、また、皆さんにとって深い学びができますように、私自身不慣れではございますが委員会の推進、協議を深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：次第に基づき、資料の説明を求める。

事務局：（資料1）北方学園構想基本計画についてと、（資料2）今後の予定について説明を行う。

（主な協議内容）

○子ども園については今後幼保連携部会で検討をしていきますが、定員が何名とか、何歳から受け入れるのかなど、その辺のことを部会のほうで決めていいのか、ある程度の思いがおりなのかをお聞きしたいと思います。そのあたりがわからないと部会を進めるときに困るかと思っております。

⇒今の点につきましては、施設の大きさがありますので、だいたい200名くらいの定員というのは決まっていることですが、それが3歳からなのか0歳からなのかという受け入れの部分については部会で検討していく事項となります。なお、部会の運営については、すべてお任せする訳ではなく、事務局のほうで原案とか会議資料は作りながらやっていきたいと思っております。

⇒今後各部会での基本的な方向性については、この準備委員会で検討していただき、また委員会に戻すという位置づけになると思っております。

○大変素晴らしい構想なので、是非進めていきたいと思っています。ただ、先生方、各部会の委員さん方のこれからの努力が大変なのかなと思っています。しかし、それが自分たちの意見を反映させる貴重な場でもあるので、先生方にも一生懸命やっていただけるとありがたいし、それが子ども達のためになると信じておりますので、是非進めていただきたいと思っています。

○学校の立場としても、北方学園の開校に向けて学校の経営方針に反映させるなど、既にできることから動いておりますので、そういった方向で全面的に協力していきたいと考えています。

○小学校で担任していた子たちが、中学校の帰りに寄ってくれて、「先生こんなことがあったよ」と話を聞いてという子達がいる、「こんなことで勉強が難しく困っている」という話をしてくれたりして、やっぱり子ども達は小学校で教えてもらった先生たちに中学校に行ってから話をしてほしいんだなと感じています。北方学園が開校されることで子どもたちがずっと安心して通うことができるんだということを考えると本当にありがたいと思っています。また、教員の立場から言っても、中学校でこういった力をつけるためには小学校のうちからここはちゃんと教えていかないといけないというのも、どの先生ももう一度確認して教えていけると子ども達にとって良い教育が出来ると思いますので、頑張っていきたいと思います。

専門部会のほうでこれから詳しく検討をしていただけたと思いますが、北方町全体のことなので、検討委員の先生方だけが頑張るということではなく、他の先生方も今度の開校に向けて今こういった状態で話し合いがされているんだということが伝わって来るともって先生方も開校に向けて頑張らなくてはという思いになると思いますので、是非細かい情報なども教えていただけたらありがたいと思います。

⇒当然学校を作っていく上で、先生ひとりひとりの意見が反映されるのがいいと思いますので、専門部会の委員は代表で出てくるんですが、出てくる前には学校で話題にさせていただいて、皆さんの意見を背負って出ていただいて、子どもの声とかいろいろな声をこの検討部会や準備委員会に反映させながらやっていきたいと思っています。

○資料1の1ページ目に校区についてというのがありますが、北学園と南学園の中間の南側に選択検討地区とありますが、それは児童や家庭に選択をさせるということでしょうか。

こちらで決めてということなのか選択するというのは、どういう意味の選択でしょうか。

⇒ここに住んでいる方が北学園、南学園を自由に選べるようにするか、それとも校区としては北学園の校区になっているので原則として北に行くのか、様々な方式があると思いますが、今後の準備委員会のなかでここに住んでみえる方の意見とかを聞きながら検討していきたいと思っています。

⇒例えば、子どもたちがいじめ等があった時に場合によっては環境を変えるということで北

に通っていたが南に替えるという話もあるのかなということも思ったので。

⇒今は中学校が1校なので出来ないのですが、指定区域の変更ということで、例えば部活動のことや、いじめのことなど生徒指導上のことで内規で指定区域を替えることができることになっていますし、この南と北になっても、それは出来るようにと考えています。

○部活動部会の協議に関して、部活動のあり方については、基本方針のなかでかなり明確な道筋や方針を示していただいておりますので、それに則ってどのように細かいところをやっていけばいいかなと、進めていきたいと考えているところです。

○子ども園に関して、具体的に遊具やプールとかはどのように考えていらっしゃるのか心配です。遊具や砂遊びなど小さいときの遊びというのは、社会性にもつながってくる非常に大事な部分だと思うのですが、もちろん幼保連携部会のほうでそういった話も出てくるかと思いますが、具体的な説明がいただけるとありがたいと思います。

⇒三つ子の魂百までということもあり、幼稚園教育はすごく重要です。小中と幼保が一緒になるということの利点は、小学校の施設も幼稚園の子が使ったり、人的にも小中学生と交流できるということです。施設につきましては、子ども園で必要な遊具は当然揃えていく予定ですし、プールにつきましては、小学校の低学年用のプールを先ほどいった利点を生かして共有していくということで基本的には考えています。ただ、0歳児からというプールについては0歳児がここにくるかどうかなという事もありますので、今後検討していく内容ですので、そこについては、子ども園のあり方そのものを今後検討していくことになるので、その辺の細かいところまでは決定していません。

⇒あと細かいことですが、菜園といった土に触れるところはどのように考えておられるのかと思います。

⇒今現在、図面でいきますと、給食調理場の北側のあたりに学校菜園のスペースをとります。また、今のプールの話もそうですが、体育館にしても小中学校でないと使えないということはありませんので、そういった施設も有効活用しながら全体として使っていければということで考えています。今後詳細に関しましては、もちろんわれわれの方も提案という形でいろいろな情報を集めながら皆さんとお話をしていければと考えています。

⇒今、学校菜園の話がありましたが、中学校の北東の昔藤棚があったところに学校菜園に替わるような所があるが、現在は活用できていない場所があります。是非そういったところを小学生とかいろいろな方々に活用していただけるとありがたいと思います。

○岐阜県の教員は小学校・中学校の行き来がずいぶんあります。校長も小学校に行ったり中学校に行ったりするのですが、これは全国的には非常に珍しいシステムのようなのです。他県では小学校で採用されたら生涯小学校という人事が行われているようです。小中の教員が行ったり来たりできるという事は、逆に言うと中学校にはどうしてもすべての教科を入れなくてはいけないので、優先して教科の専門を入れます。そうすると小学校にすべての教科を入れることが難しくなって、本当は小学校もいろいろな専門の先生が入る方がいいの

ですが、なかなか上手くいかないことがあります。現実には、ある小学校には理科の先生がいないとか図工・美術の先生がいないということが時々起きてしまいます。今回小中一貫の義務教育学校を作るということでより質の高い教育が見込めるという説明がありましたが、それぞれの学校にすべての教科の専門の先生がいるということ自体が、非常に意味のあることではないかと思えますので、その点一つを取ってみてもこの学園構想を進めていって質の高い教育を目指すということは、素晴らしいことだと思っています。

○白川郷学園に視察に行ったことがあるのですが、中学生が小学生も指導しなくてはいけなくなり、中学校の子ども達がアイデアを使って小学生を育成しているという姿を見せていただきました。誰もが9年先の自分の姿を描いたり9年前の自分を振り返ることができ、これは義務教育学校ならではのことで、子ども達を見ていると本当に優しい子ども達だということを感じられました。今、国全体で小中一貫教育や、教科担任制というのが強く求められています。北方学園構想はすごく期待が持てる構想だと思いました。

○この開校準備委員会は専門部会の間をつなぎ役とか、部会を俯瞰して考える。そういうことが大きな役割になるであろうと思います。この場で初めて話が出てくるのではなく、その前に部会同士で議論をして、そこで出てきたことをこの場で持ち寄って全体で議論するということが必要であろうと考えています。今後、専門部会で協議を進める際には、部会同士の透明性・双方向のやり取りを各部会のご担当の方々に意識してほしいと思います。

○今までいろんな説明を聞いて、改めて大変だと思っています。今までもある程度事務局がたたき台を作って出されて、それを検討されるというケースが多かったのですが、これから実際の工事も始まるなかで事務的に大丈夫か心配しています。各部会の検討事項だけでもたくさんあるのに、建設も始まってくるとこれにいろんなことが関わってくるんですが、スタッフ含めそんなに大勢いないのでそれが一番心配です。

⇒今年度から実際に動いていくので、仕事の分量などを洗い出し、各部局とも相談しながら仕事にあった組織をきちんと整えていきたいと思っています。

⇒町議会としても一体となって進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○教員に1学期にアンケートを取ったときに、9年間を通して子ども達を見るという環境は教員にとってうれしいことだという意見が多かったですし、教員になった以上義務教育を預かっているという意識を持つことができるとらえている人が多かったです。ただ、不安に思っている点もあり、初めてのことなので指導計画や時間割などどうやっていけばいいんだろう…という不安を持っている教員ももちろんいます。そのあたりを解消していかなければならないと思っています。保護者についてもPTAと連携してということで、夏休み中にも学園構想についての懇談をもちまして、教員も一緒に参加をして情報を共有していきたいと思っています。また、PTAの方で意見箱を作ってくださいだったので、ご意見があればい

つでもどうぞということで情報を共有しながら共に進めていきたいと思いをします。

○先ほどのご意見で、桑原学園では今やっと校歌が歌い始められているという話をお伺いしまして、その他校章や制服などもろもろのこともあるのですが、そういったことが非常に大切だということを改めて自覚したところです。PTA・校名等部会は、PTAの役員の方々及び自治会の方々に支えていただきますので、充分保護者の方々や地域の方々のご意向を掴みながら進めていくことが大事だと改めて感じました。計画性を持って取り組んでまいりたいと思いをします。

○令和5年に開校ということですが、それまでの3年間あたりの期間については緩やかな移行期間という事で、先にそれを目指して、学校の体制や教育課程について少しずつ変更したり、小中をすり合わせていくようなことをしてもいいのではないかと、いろいろなご意見をお聞きしながら思いました。

委員長：1回目の協議は以上とする。次にその他について説明を求める。

事務局：事務連絡として、委員会報酬の支払いについてと、次回の委員会の日程についてを説明する。

委員長：閉会にあたりあいさつを述べる。

○義務教育学校というのは、全国の動きを見ていきますと小中学校の統廃合と関連する場合があります。それも地域の方々のご理解を頂く一つの方法ではあるかと思いをしますが、北方の場合は、9年間の子どもの育ち・発達に即した教育の在り方はどういうものかということ正面から考えていく非常に先進的なものだと考えております。もともと義務教育学校が法令上出てきたのも、学校教育70年間ずっと小中6・3制できたものを、今後の社会のあり方や現在の子どもの成長のことを考えてみるとそのあたりの枠組み自体が子どもの成長に即して柔軟に考えていく必要があるのではないかという発想からきていると思いをします。そういった意味でも、北方町がなされようとしていることは大変かと思いをしますが、私自身非常にやりがいのある仕事だと思っております。今後、皆様のご協力の下に進めていきたいと思いをしますので、どうかよろしく願いをいたします。長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。